

第118回 スポーツを語り合う会

主催：日本スポーツ学会、特定非営利法人スポーツネットワークジャパン 協力：株式会社フロムワン

シンポジウム「ラグビーワールドカップを10倍楽しむ！」

日本で最もラグビーを知る5名のジャーナリスト・ライターが、
9月20日開幕のラグビーワールドカップの見どころなどを語ります！！



生島 淳
スポーツジャーナリスト

1967年宮城県気仙沼市生まれ。早大卒業後、博報堂に9年勤務し、スポーツライティングの世界へ。ラグビーW杯は99年から現地に足を運ぶ。昨今はラグビーや陸上競技、講談の神田松之丞についての原稿も増加。著書に『エディー・ジョーンズとの対話』、9月には『エディー・ウォーズ』に新章を加筆し、文庫化予定。



大友 信彦
スポーツライター

1962年宮城県生まれ。気仙沼高一早大第二文学部卒、85年からスポーツライターとして「Number」などで活動。87年から「東京中日スポーツ」のラグビー記事も担当。2011年WEBマガジン「RUGBYJAPAN365」設立。著書に『釜石の夢～被災地にワールドカップを～』、『オールブラックスが強い理由』（講談社文庫）、編書に『五郎丸歩 不動の魂』など。



玉木 正之
スポーツ・文化評論家

東京大学教養学部在学中より東京新聞紙上で執筆活動を開始。日本で最初のスポーツライターを名乗る。著書に「スポーツとは何か」（講談社現代新書）など多数。訳書にR・ホワイティング「ふたつのオリンピック」（KADOKAWA）、「和をもって日本となす」（角川文庫）など。



永田 洋光
スポーツライター

出版社勤務を経てフリーのスポーツライターとなり、1988-89年度からラグビーの取材を始める。最初に取材したシーズンに神戸製鋼が初優勝。宿澤ジャパンのスコットランド戦勝利も秩父宮で目撃した。以後もラグビーの取材を続けて現在に至る。著書に『勝つことのみが善である 宿澤広朗全戦全勝の哲学』（ぴあ）、『新・ラグビーの逆襲』（言視舎）などがある。



村上 晃一
ラグビージャーナリスト

1965年京都市生まれ。大体大在学中に86年度西日本学生代表FBとして東西対抗出場。87年4月ベースボール・マガジン社入社、ラグビーマガジン編集部勤務。90年6月より97年2月まで同誌編集長。出版局を経て98年6月退社し、フリーランスの編集者、記者、ラグビージャーナリストとして活動。近著に「ラグビーが教えてくれること」（あかね書房）、主な出演番組に「ラグビーウィークリー」（BS朝日）など。

日時：2019年8月5日（月）19：00～（開場 18：30）

定員：80名（当日先着順、事前申込は不要です）

会場：FROMONE SPORTS BASE

お問い合わせ：sports.gakkai@gmail.com（日本スポーツ学会）
03-3323-0893（スポーツネットワークジャパン）

東京都中央区八丁堀4-9-4 西野金陵ビル（株）フロムワン 1階
東京メトロ・日比谷線、JR京葉線・武蔵野線、
「八丁堀」駅 A1出口より、右方向に徒歩1分

参加費：1,000円（日本スポーツ学会会員は無料）

上記連絡先以外へのお問い合わせはご遠慮ください。
不在の場合はご連絡先を留守番電話にお入れください。
その際、ゆっくりとお話いただきますようお願いいたします。
後ほど、こちらからご連絡を差し上げます。